

研究テーマ	材料や用具に触れながら思いついたことを表現できる絵画指導の工夫 一小学校 第2学年「ばかしあそび」の実践を通して
-------	---

利根町立文間小学校 教諭

I 研究テーマについて

今回の学習指導要領の改訂に伴い、材料や用具の扱いが、絵や立体、造形遊びといった「特定の活動」に限定されずに、児童の発想や構想に応じて習得・活用できるようになった。

本校2年生は、図工の時間が大好きで、絵を描くことも好きな児童が多い。本題材「ばかしあそび」では、コンテという新しい用具との出会いを体験し、コンテやクレヨンでぬったところをティッシュでこすってぼかす技能を身につけることで児童の表現方法を広げたいと考えた。「ぼかすことって楽しいな。」「ぼかすときれいだな。」と新しい技法を楽しみ、今後の絵画活動に生かしてほしいとの願いから、本テーマを設定した。

II 研究の実際

1 題材名 「ばかしあそび」

2 題材の目標

- クレヨンやコンテなどの材料を用いたぼかし模様をつくってみようとする意欲を持つことができる。
(造形への関心・意欲・態度)
- 好きな花を思い浮かべたり、虫が遊んでいる様子を想像したり、表したい場面を考えることができる。
(発想や構想の能力)
- 花に合う色を選び、自分のイメージの合うように描いたり、ぼかしたりできる。
(創造的な技能)
- 自分や友達の作品を見ながら、形や色、表し方のよさに気付くことができる。
(鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 児童の実態 (実態調査日 令和元年6月25日 男子14名 女子15名 計29名)

1 図工のどんな活動が好きですか。	工作16名 粘土5名 絵5名 全部2名 はさみ1名
2 何を使って絵をかくことが好きですか。	絵の具14名 クーピー9名 クレヨン4名 色鉛筆2名 マジック1名 ペン1名
3 絵をかくときに使ってみたい用具はありますか。	絵の具13名 鉛筆4名 クレヨン4名 チョーク3名 クーピー2名 マジック2名 ペン2名 色鉛筆1名 ない2名

アンケートの結果からもわかるように、工作や粘土を楽しいと感じている児童が多い。絵画活動は、自由帳に絵を描くことは楽しいが、画用紙に大きくかいしたり、色をぬったりすることは、自分の思いと完成した物に差があると感じている児童が多いようである。

また、絵を描くときに使用する用具は、児童が使用したことがあるものに限定されているので、新しい用具を紹介することは、新鮮な体験になるであろうと考える。

(2) 題材観

本題材「ぼかしあそび」では、クレヨンやコンテを使って絵を描いたり、色を塗ったりするだけでなく、描いたところをぼかすという新しい技法の出会いを体験させたい。子どもたちは、1つでも多くの表現方法を知り、体験することで自分のイメージにより近づけるための表現力を身につけ、絵が完成するまでの過程を楽しむことができるようになるであろうと考える。この題材では、コンテという初めての用具との出会いと新たな表現方法の体験ができる格好の機会である。

(3) 指導観

指導に当たっては、花の色ってどんな色かな。という問い合わせに、濃いところや薄いところがあるということに気づかせるようにしたい。それをどんな風に表現すればいいか児童と共に考える時間を設定し、教師からぼかす表現方法を紹介するように進めたいと考える。「ぼかすときれいだな。」「ぼかすとお花の色みたいだな。」など気づかせるようにしたい。本題材で児童の表現方法の選択肢が増えたことで、その後の図工科の学習で、自分の意図に合わせて材料や用具を選び、自分のイメージに近づけようとする姿を育てていきたい。

4 題材と評価規準

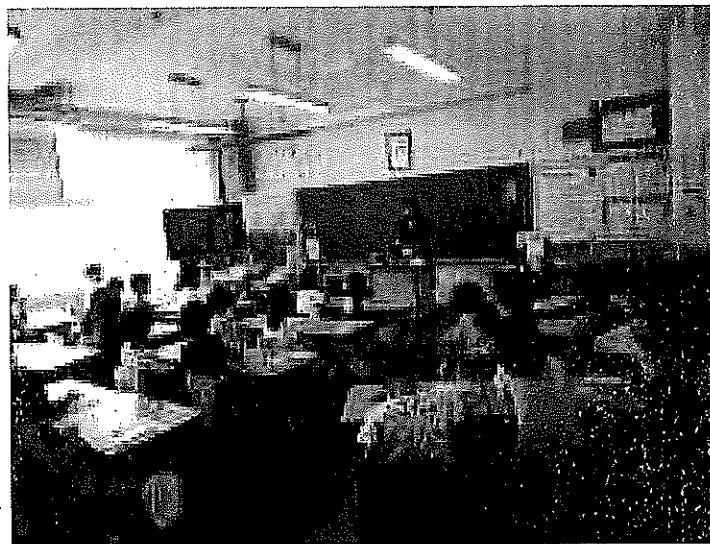
関心・意欲・態度	発想の構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
クレヨンやコンテなど描画材料を用いたばかり模様をつくる楽しさを味わおうとする。	花の色や形を思い浮かべたり、生き物を遊ばせる様子を想像したりすることができる。	花に合う色を選び、色をぬったり、色をぼかしたりして自分のイメージに合わせて絵に表すことができる。	自分や友達の作品を見ながら、形や色、表し方のよさに気付くことができる。

5 指導と評価の計画(5時間扱い)

時間	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
第1次 ①	「あじさいの花はどんな色？」 ・あじさいの花の色に濃淡があることに気づかせ、ぼかすことの良さを体験する。	・ぼかし遊びに興味を持ち、楽しみながら活動しようとする。 関 【作品、発言】
第2次 ③	「好きな花をかこう」 ・好きな花をかいて色をぬったり、ぼかしたりする。	・好きな花をかいて、色の組み合わせやぼかし方を工夫することができる。 創 【作品】 ・花の色を思い浮かべ、ぼかすことのよさに気付くことができる。 発 【作品、発言】
	「花に生き物を遊ばせよう」 ・生き物と触れ合った経験を思い出し、自分が表したい場面を想像して絵に表そうとする。	・生き物と触れ合ったことを思い出し、花に虫を遊ばせる様子を絵に表そうとすることができる。 発 【作品】
第3次 ③	「鑑賞しよう」 ・友達の作品を鑑賞して良い点や工夫している点を見つける。	・自分や友達の作品の良さを見つけることができる。 鑑 【発表、プリント】

6 指導の実際 「ばかしあそび」

(1) あじさいの花はどんな色?



学校の庭に咲いているきれいな花をもってきました。

「あじさいだ。」

あじさいの花は、どんな色でしよう?

「むらさき」「ピンク」

「青」

よく見てごらん、濃いところと薄いところがあるよ。何で塗ったらきれいかな。

「クレヨン」「クーピー」

「絵の具」「ペン」



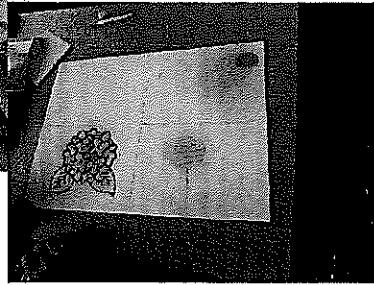
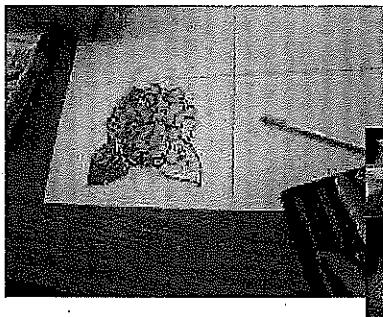
じゃあ先生が塗ってみよう。クレヨン、クーピー、絵の具、それからパステル(コンテともいうよ)

どれが、きれいにぬれてい るかな。

「えのぐ」

「パステル」

そうだね。絵の具はきれいに塗れるね。パステルもきれいだね。パステルは、ぼかしてぬることができ るよ。



あじさいの花をパステルで
ぼかしてみましょう。

「ぼかすとあつという間
にぬれたよ」

「きれいにぬれたよ」

他の絵でもやってみましょ
う。

「ぼかすときれいにぬれ
る」

「いろをまぜるとどうな
るかな」

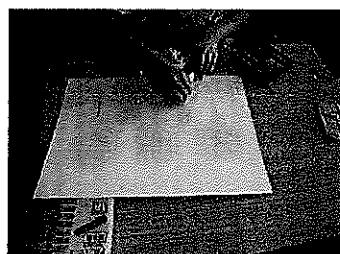
「かんたんだ」

「ぼかすって楽しいな」

「いっぱいぬれた」

「きれいにぬれた」

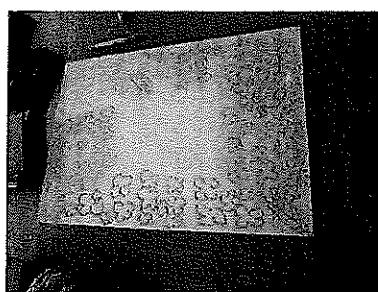
(2) 好きな花をかこう



好きな花をかいて、色をぬ
ったりぼかしたりしてみま
しょう。

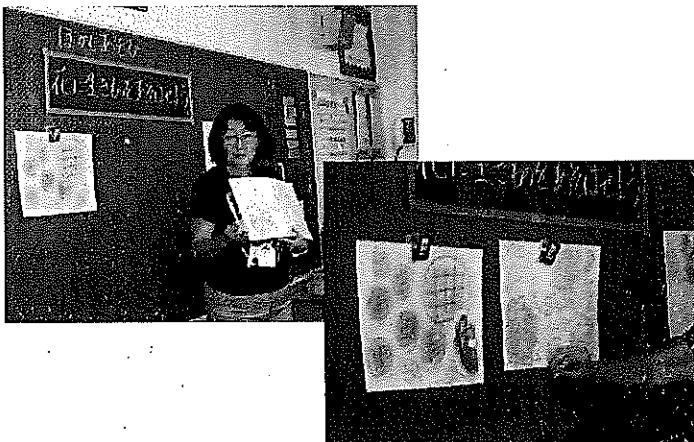
「わたしは、あじさいを
たくさんかこう」

「ぼくは、ひまわり」



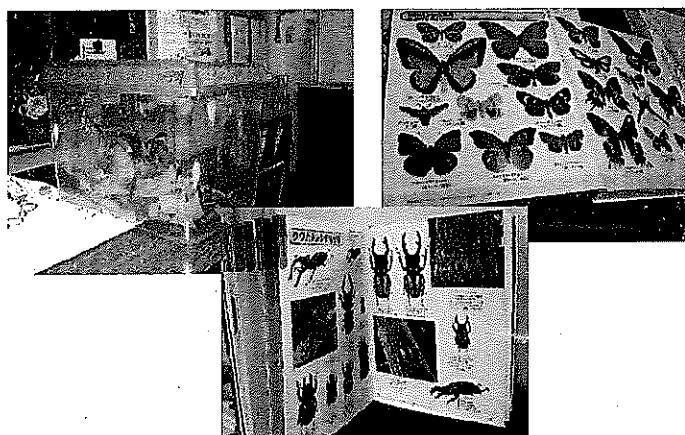
「いろんな色のあじさい
をかこう」

(3) 花に生き物を遊ばせよう



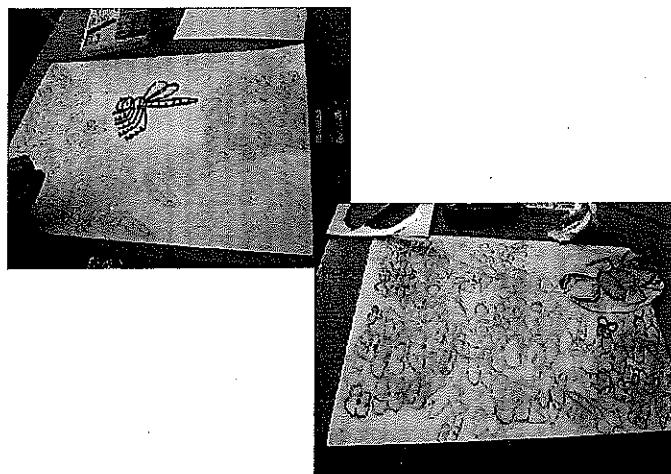
みんなが描いた花の絵にいきものを遊ばせてみましょう。

先生は、ちょうどちょを遊ばせたいな。
ちょうどちょもパステルでぼかしてぬってみました。



すきないきものをかいていいよ。

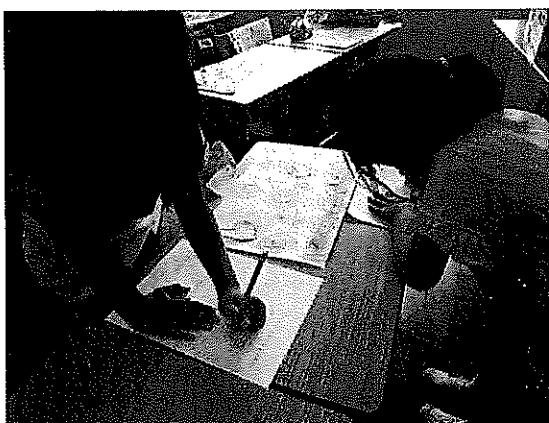
教室でかってるちょうどや図鑑を見てもいいよ。



「わたしのあじさいに、
とんぼがとんできた
よ」

「ぼくのあじさいには、
かたつむりとくわがた
をあそばせたよ」
「くわがたは別の紙にか
いてはったよ」

(4) 鑑賞しよう



友達の作品のすてきなところをみつけましょう。

・ひまわりのぼかしかたがきれいです。

・かぶと虫が、ほんとにとんでもるようです。

・虫がたくさんいてたのしそうです。

・あさがおがきれいです。

・あじさいの青があざやかできれいです。

・あじさいとかたつむりがあつっています。



III 研究の成果と課題

1 児童アンケート (調査日 令和元年7月3日 男子14名 女子15名 計29名)

1 ぼかしあそびは、楽しくできましたか。	楽しかった 20名 まあまあ楽しかった 8名 楽しくなかった 1名
2 どんなことが楽しかったですか。	・ぼかすこと 12名 ・あじさいをかくこと 3名 ・虫をかくこと 3名 ・あじさいに虫を遊ばせること 3名 ・その他 (トンボをかいた, ほめてもらった等)
3 これからパステル(コンテ)をつかってどんな絵をかいてみたいですか。	・どうぶつをかいてみたい。4名 ・いろいろな虫をかきたい。3名 ・たんぽぽと生き物をかきたい。2名 ・その他 (恐竜、森、お菓子、フルーツ、ちょう、テントウムシ、ヒマワリ、鳥、桜、空、人、お花畠、遠足、運動会)

2 成果

- ・低学年の絵画活動では、自分の思いがあつてもうまく表現できなかつたり、クレヨンや絵の具で色を塗ると、思いとは違うものに変わつてしまつたりすることがあつた。本学級児童は、工作や粘土などすぐに形にできる活動を好んでいる傾向が見られた。本題材では、「ぼかす」というパステルを使った手法で、簡単にきれいに色が塗れたことで、自分の思いに近い絵画表現が体験でき、満足している児童が多いように感じた。パステルを使ってもつといろいろな絵を描いてみたいという意欲がアンケートの結果にも表れ、次のやる気につながつていることがわかつた。
- ・「花に生き物を遊ばせよう」では、教室で飼っている蝶やクワガタなど、児童の身近にいる生き物を描く児童が多く、自分の経験したことが児童の思いに結びつき、表現したいという思いにつながつていることがわかる。生活科や休み時間、校外学習の体験が、図工科の表現する力を伸ばすためには、重要なことだと言える。

3 課題

- ・本題材では、児童の机の配置を、一斉指導の形のままで行ったが、活動途中でグループの形にする時間を設けてもよかつた。
- ・図工科の評価では、活動の観察や児童のつぶやきの聞き取り等、作品のみの評価にならないよう指導と評価の一体化を常に心掛けなければならない。評価は、児童一人一人の持てる力がよりよく育つために必要な教育活動であることを認識し、教師が児童の良さに気付き、理解を深めることができるよう、もっと専門性を高めていきたい。

